

## 城址公園のこども遊園地の在り方に関する懇談会について

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 20 日（水） 午前 10 時から午前 11 時まで
- 2 場 所 301 会議室（市役所本庁舎 3 階）
- 3 出席者 別紙城址公園のこども遊園地の在り方に関する懇談会出席者名簿のとおり
- 4 傍聴者 2 人
- 5 概 要

経済部長挨拶、出席者紹介後、事務局から城址公園のこども遊園地の現状と課題等を説明し、意見交換を行った。

### ○意見交換

#### 進行

構成員の皆様から、休園中のこども遊園地の現状等についてのご発言をそれぞれお願いします。

#### 構成員

遊器具は、できる範囲でメンテナンスを行っているが、遊器具が古いため、修繕部品の調達に苦慮している。再開した場合は、稼働できるよう保守管理に努めている。

バッテリーカーのバッテリーなどの消耗品は、再開時には新品に交換する必要があるが、老朽化に伴い遊器具の可動部の状態はよくない。現状では、延命したとしても、あと 10 年程度が使用限度と思われる。

#### 構成員

小田原に住んで 60 年以上になるが、子どもの頃からこども遊園地に親しんできた。親戚にも案内するなど愛着があり、休園を残念に思う。

天守閣からこども遊園地が見え、入場者から「いつ開園するのか」との声は聞く。ネガティブなものではないが、「遊園地に行こうと思っていたが残念である」との声もあり、皆さんが想像されるような反応が多いと思う。

#### 構成員

夏休みに来られた方から、「休園のことを知らなかった」「せっかく来たのに残念である」などの声を聞いた。また、休園を知っている方からは、「いつから再開するのか」という声が多くある。子どもを連れて里帰りされた方からは、「懐かしく思い、遊園地に来た。元に戻してほしい」との声も聞いた。

「小田原こども文化博覧会」や「動物園」の写真などを見せると、多くの方々が懐かしがられる。「懐かしさ」もキーワードとなり、商品力になると思っている。

また、全国でも、子ども連れで楽しめるお城はあまりないと感じている。コンセプトの一つとして「子ども連れで楽しめる小田原城」ということもあると思う。

ただ、こども遊園地の収支が大幅な赤字であることを資料で確認し、口をつぐむしかないとも思った。史跡整備との兼ね合いで、いずれは閉園すると思っており、これをきっかけに閉園するのではないかとの声もある。

おしゃれ横丁にはメリーカップが移設されており、懐かしく感じてメリーカップに乗る人や写真を撮る人がいる。

仮に、こども遊園地がなくなった場合には、豆汽車を移設して楽しんでもいただくこともあると思う。箱根口ガレージには路面電車が展示されているが、屋根のある休憩場所がないため、どこかに豆汽車を展示できると良いという声もある。

## 構成員

皆さんのお話から、こども遊園地は地元で愛着のある施設であることが伝わってきた。しかし、時代が変わってきていることが正直な感じである。

観光地での問題として観光客の災害対応がある。城址公園はとても広い施設があるので、大きな地震が発生した場合、一時避難場所になると思う。小田原城は分かりやすく、集まりやすい場所である。小田原に観光で来た場合、何かあったら家族で小田原城に集まるといった安心感があると思う。国内全体で外国人観光客が増えてきており、観光そのものが昔の観光とは大きく変わってきている。

観光振興にあたっては、いざという時の災害対応も必要であり、小田原城は観光と災害対応の両立ができる場所と考えられる。

## 構成員

3年連続で観光客の入込客数が過去最多となったが、天守閣やこども遊園地の存在が大きいと感じている。二の丸広場などを利用して、イベントを開催しているが、ファミリー層に来ていただくと盛り上がり、来場者数の増加にもつながることから、子どもに対する取り組みは大切と思っている。一方で、こども遊園地には愛着があり、このような状況を寂しく思っている。

また、別の会議体でも、地域の意見として広場や公園がほしいとの声を聞くことがある。市として、こども遊園地に限らず、広い視野を持ち、子どもに対する施策や取り組みを考える必要が出てきていると感じている。

## 構成員

令和3年に「史跡小田原城跡保存活用計画」を策定している。城址公園が国指定史跡となっていることから、昭和57年以降、史跡整備を実施しており、銅門の復元、住吉堀の整備、馬出門の整備等をしてきた。

現在、御用米曲輪の整備に向けた発掘調査を実施するなど、史跡整備を進めている中で、城址公園内の動物園やこども遊園地の一部施設の撤去を行い、史跡の

本質的価値の顕在化を皆様の協力をいただきながら進めている。

こども遊園地は「史跡小田原城跡保存活用計画」では、遊具の寿命を見据え、段階的に撤去を検討すると取扱方針を決めており、時間を要するが、将来的には、史跡整備に向けて進めていくこととしている。

## 進行

これまでの発言に関連したことでも構わないので、改めてご意見を伺いたい。

## 構成員

全国には、動物園や遊園地がある城郭が意外に存在している。過去には、このような整備が流行した時期もあったと思われる。小田原城では動物園が閉園し、こども遊園地の遊器具も段階的に撤去されているが、家族連れの方々により多く来場してもらえれば天守閣の入場者も増えると考えられる。また、家族連れに来ていただくことは、教育的な視点からみても重要なポイントと考えられる。

こども遊園地は家族連れに来ていただく施設であるが、遊器具の交換部品がないことや新規に設置できないなどの課題があり、現在の遊器具に限界があることは十分に理解できる。

遊器具でなくても、家族で遊べる場所は提供できると思う。この懇談会で史跡整備と合致するポイントを見つけることができればと考えている。家族連れの方が城址公園に期待するところはあるので、家族連れの方は、豆汽車やバッテリーカーだけではない、何かしらの子ども向けの施設があるものと思っている。

## 構成員

小田原城天守閣で実施した謎解きイベントは、お城好きの子どもが家族で楽しんでおり、良いイベントであると感じた。

イベント企画の際にまとめた、X（旧ツイッター）でのこども遊園地に関する投稿を持参したので事務局に提供させていただく。いろいろな意見や評価があるが、このまま閉園となると情けなく感じるので代替案を示し、皆さんに納得していただける方策を考えていきたいと思う。

## 構成員

部品の調達は、特注品として製作するため、割高になることもある。

## 構成員

お城好きの方から、こども遊園地の場所はお堀ではなかったのかとの指摘を受ける。小田原城は障子堀が有名であるが、どこで見られるのかという質問をいただくが、そのような時は山中城を案内することもある。

## 構成員

こども遊園地の場所は屏風岩と呼ばれる場所であり、江戸時代の絵図を見ると、今回崩れた場所に堀があったことが確認できる。そこを埋め立てて、こども遊園地の一部としているようであり、元々、地盤が強くない所が崩れたと思われる。令和4年には東側が崩れており、戦国、江戸時代の地形から変わっているため、この場所の安全面も考慮する必要があると考える。

## 構成員

観光スポットでもあり、且つ地域の住民が家族でも楽しめる施設を盛り上げていくという発想は聞いたことがない。最近では、外国人や富裕層をターゲットした戦略が多くあるが、小田原城を考えたとき、地域の気持ちを大切にしながらも観光スポットとして盛り上げていく切り口が最良と考える。

皆様が小田原城を大切にしていることは承知している。地元の誇りでもあり、家族をつなぐ施設でもあり、外国人も来場される全国的に有名な観光施設となると、小田原城に匹敵する施設は他にないと思う。難しい問題であるが、様々な要素をうまくまとめられればと思う。

## 構成員

屏風岩は、桜の花見ができる絶好のスポットであり、天守閣も見られる良い場所である。また、城址公園の北口から遊園地のバッテリーカーのある場所に続く道では美しいアジサイが見られる。案内がないと歩かないところでもある。

## 構成員

市民の方が地域資源を認識して、自分の地域を愛することが、観光客を呼び込むことにつながるという考え方がある。そのような考えのもと、まち歩きなど様々な取り組みを進めている。

『懐かしさ』という商品力」とのお話があった。まち歩きの中で昔のことを語り継いでいくことによって、市民の方をはじめ、観光客の方にも小田原の歴史を伝えることができるのではないかと。遊園地を原状復帰することで、喜ばれる方もいると思うが、器具の老朽化の問題や収支の状況等を踏まえると、厳しい面はある。落ち着くところを考えていきたい。

## 進行

ご発言も尽きたようなので、意見交換を終了させていただく。

## 事務局

本日のご意見等を整理し、次回の懇談会では、令和8年度の実施や今後の懇談会の進め方などについて、意見交換をさせていただきたいと考えている。

なお、次回の懇談会の開催時期は、11月中旬を予定している。日程は、改めてご連絡させていただきたい。